

読む得! 在宅医療と介護の連携

がんと在宅ケア ～身近な事例から～ 第7回

がん末期でも自宅でできるだけ過ごしたいケース

入院中の60代後半の女性（就労する夫・娘と3人暮らし）は、がん末期の診断を受け、最期まで自宅で過ごしたいと退院を希望しました。退院後は、医療保険で体調確認のための訪問診療と訪問看護を受けることになっていましたが、日中一人になってしまう時間も多く、本人・家族の不安もあり、介護保険の申請・認定を経て介護保険サービスも利用することになりました。

退院後、食事や入浴の提供を受けられるデイサービス（介護保険サービス）の利用を始めました。また、訪問診療医・訪問看護師・サービスの計画調整を行うケアマネジャー間の情報共有で、がんの進行に伴う急な体調変化に対応できるようにしてもらいました。

担当ケアマネジャーが訪問すると、「家はやっぱりいい」、「見守ってもらえるし心配事も相談できて安心」といった本人や家族からの声が聞かれました。

☆ポイント☆

がん末期など医療ニーズの高い方でも、医療・介護の在宅サービスを利用することで、安心して自宅で過ごすことができます。ご相談は、かかりつけ医、高齢者支援課または高齢者なんでも相談室へご連絡ください。